

時津公民館主催 夏休み子ども教室「自然体験教室」

「時津川の生き物調べ」実施報告書

報告年月日：令和5年8月8日

報告者：講師・自然案内人
原田 穰

- 1 教室の実施日時：令和5年8月4日(金)10:00~12:00
- 2 教室の目的：西彼杵郡時津町を流れる2級河川時津川の生き物の生態、水質及び人と生き物の関わり方を学ぶ
- 3 教室の参加者等：時津町内小学生4~6年生17人、保護者1人
主催者2人（山口修一係長、担当：北川由紀雄係長）
講師補助 長崎県地球温暖化防止活動推進員（西彼地区）1人（林田）
（前日補助：同上3人（山口、小西、林田））

4 教室の概要

- (1) 公民館視聴覚室において 開講あいさつ、時津川の概要、生き物調査を行う際の注意事項の説明

- ・環境省／国土交通省編、(公社)日本水環境学会発行「川の生きものを調べようー水生生物による水質判定ー」下敷きを配布し、川の生き物による川の水質の調査方法を説明。
- ・地球温暖化が及ぼす生態系及び河川環境への影響について説明。

- (2) 時津川の生き物調査の実施

●調査前日

- ・前日夕方に河川内2か所にカニかごを丸太橋下に2個、下流側蛇籠下に3個を設置。

●調査当日

- ・河川内の随所で見られたイシマキガイの説明と水質判定下敷きとの照合や網を使用した生き物調査の方法の説明。しかしながら、河川内ではカワムツやヨシノボリ類の小魚が多く見られたが、カゲロウ類等の水生昆虫は種不明の1匹しか見られなかった。

- ・実際に下流側蛇籠下の川に入り、前日仕掛けていたカニかごNo.1、No.2とNo.3を回収。

採取できた生き物：ミナミテナガエビ大小約10匹、カワムツ2匹、オイカワ2匹、
ヨシノボリ類数匹、川エビ類数匹

昨年はカワムツもオイカワも採取できなかった。

- ・蛇籠と丸太橋の間では、持参した網で生き物を採取。採取した生き物は透明の容器やバケツ、観察ケースに入れて、子どもらに見せながら種類を同定した。

採取できた生き物：イシマキガイ多数、カワムツ(稚魚多数)、ヨシノボリ類多数、
川エビ類多数、モクズガニ1匹(死骸)。

- ・昨年多く採取できた川エビ類は今年もたくさん採取できた。

- ・丸太橋下に前日夕方から仕掛けていたカニかごNo.3、No.4を回収し、捕獲した生き物をバケツに移した。この場所は今回も採取種が少なかった。

採取できた生き物：ミナミテナガエビ1匹、カワムツ1匹。

(3) 時津川の水質判定等

- ・イシマキガイが多く採取できたことから水質階級Ⅱ(ややきれいな水)に該当すると判断した。また、ミナミテナガエビもたくさん採取できており、昨年より河川環境は良好と判断した。併せて、昨年は川底の岩や礫に藻類の繁茂が著しく、見た目にも悪い状況で、川の中を歩くと濁りがひどくなり、藻のにおいも感じられたが、今回は濁りや藻のにおいも軽減されており、河川環境特に河床は改善されている。
- ・河川敷には外来植物のウチワゼニクサやヤナギバスズムシソウなどが昨年より多く繁茂していた。また、外来種のツキミソウ類やタカサゴユリが今回初めて確認され、河川内でも昨年確認されなかった外来種のオオカナダモが確認され、当該河川ではさらに外来種が進出していることがわかった。
- ・公民館前では、調査終了後にアオサギ1羽を確認できた。
- ・河川敷では、シオカラトンボ、ウスバキトンボ(長崎で言うショウロウトンボ)、ショウジョウトンボ、ハグロトンボを確認できた。昨年確認されなかったイトトンボ類は今回数匹確認できた。また、昨年確認できたベニトンボは確認できなかった。

5 所 感

実施当日 10:00 の気温は公民館河川側駐車場出入口で 33℃を計測し、昨年の 30.4℃(長崎気象台 11 時頃)を大きく超えており、今回も水温の計測を忘れたものの、昨年同様ぬるく感じた。調査の終盤に子ども 1 人の体調が悪くなったので早退をさせた。報告者も今回は首にアイスリングを巻いて暑さ対策を行った。

河川敷には昨年より草地在り繁茂していたが、非常に暑く、調査河川の上流側にある丸田橋下の日陰で一時休憩し、給水を行って涼を取った。深みで泳ぎだした子どもたちもおり、どこの観察会も同じだなと思うとともに、安全のためには目を離すことがないように注意が必要であることをあらためて感じた。

今回、昨年採取できなかった魚類のオイカワが採取でき、カワムツと一緒に比較しながら子どもたちに見せることができてよかった。その際に、魚類の縦縞、横縞の見方で、頭から尾方向に縞があれば縦縞、背から腹方向に縞があれば横縞を説明したところ、「え！」という反応があり、面白かった。

当該河川での調査(自然体験教室)は、今回で連続3回目となったが、上流側では長崎大洪水のような災害が起こらないよう防災工事が実施されており、今後生物生息環境などの河川環境に悪影響が無いよう将来にわたって継続的な生物調査の実施が必要と感じた。

なお、今回も昨年に引き続き、調査にあたっては、上流側で時津川防災工事が施工されており、濁水が流出しないよう事前に工事現場責任者に依頼し、支障なく調査を実施することができた。感謝申し上げたい。

【参考】記録写真



①公民館係長による開講式



②講師による時津川の話



③講師による時津川の話



④公民館駐車場で出発前の講師説明



⑤公民館前の時津川を見る



⑥川の中の貝(イシマキガイ)について説明



⑦下流側の蛇籠の上から川を見る



⑧採取した生き物を見ながら説明



⑨採取した生き物(ミナミテナガエビ)を見る



⑩生き物採取。遠方に外来種のタカサゴユリが見える



⑪川の中の生き物を採取



⑫川の中の生き物を採取



⑬川の中の生き物を採取(上流側から撮影)



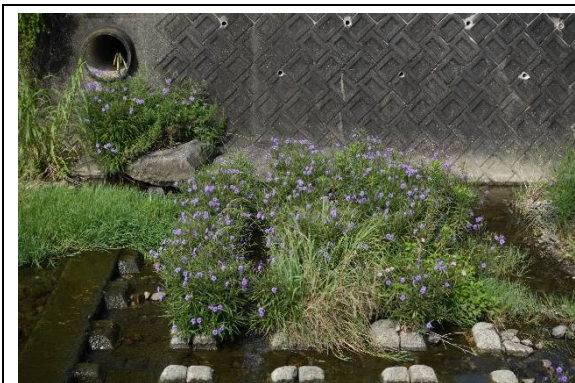
⑭丸田橋下で振り返り



⑮参考 婚姻色の出たオイカワのオス



⑯参考 婚姻色の出たカワムツのオス



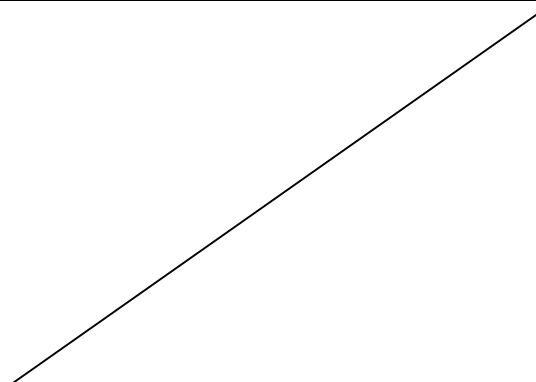
⑰外来種ヤナギバスズムシソウ(8/2 撮影)



⑱外来種ウチワゼニクサ(8/2 撮影)



⑲時津川下流側段差の蛇籠(8/2 撮影)



以上